第二宅老所よりあい

「宅老所よりあい」は1991年、施設介護に限界を見た女性三人の活動に始まるこの分野の草分け的存在である。この建物はその第2施設で、2005年の地震被害により長年親しんだ町から隣町へと新築移転したものである。計画に際してはハード検討とともに移転に伴う新たな地域社会との関わり方が重要なテーマとなった。職員や支援者らによる計画ワークショップ、近隣のひとびととの意見交換など、施設の計画がまちづくりの視点で議論された。

敷地は狭い前面道路と高低差、南の陽を遮る神社の森などの難題を抱えていたが、これらは地域福祉拠点としての適度な象徴性の表現に活かすことができた。古典的な意匠も既存の石積みとともに周囲と調和し、むしろ新鮮に映っている。木造架構や伝統建具を駆使した気配を感じる空間づくり、新しい自然エネルギーの導入など、意匠、計画、技術面の充実にも努めた。ワークショップを用いた計画プロセスは皆の参加意識、共有意識を高めた。縁側や三和土の玄関土間は「地域の縁側」として育ち始めている。隣町からの「よりあい」の移転は地域福祉の拡張であり時代の要請でもある。高齢者を地域で支えるしくみの足がかりがもたらされたことは、ここを核とする地域のつながりを生み、やがては人々の安心を支える存在となるだろう。

1　正面全景
2　居間
3　縁側

所在地　福岡県福岡市／建築主　社会福祉法人福岡ひかり福祉会／施工　山口工務店／敷地面積　580㎡／延床面積　280㎡／構造・規模　W 造　地上 2 階／竣工　2007 年／撮影　河野博之